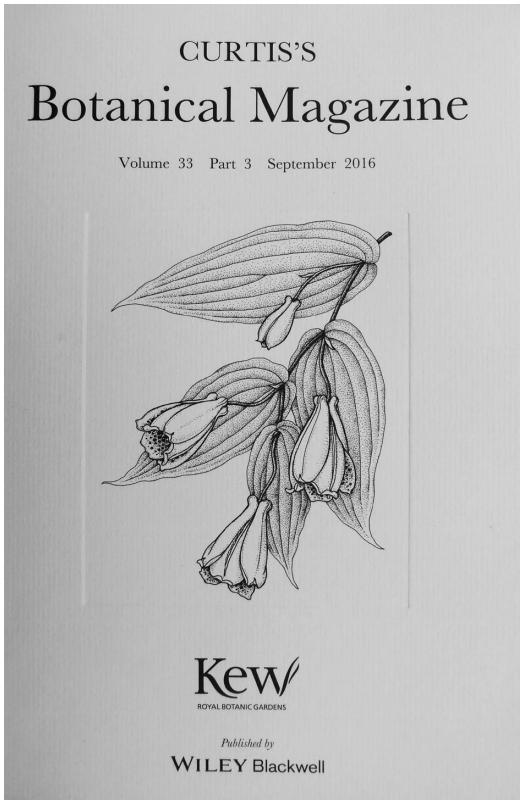
新 刊 Book Reviews

□**Curtis's Botanical Magazine 2016 vol. 33(3): 191–291. September 2016**. Royal Botanic Garden, Kew. £10. Print ISSN 1355-4905.

1787年創刊のカーティス・ボタニカル・マガジンの第33巻3号（2016年9月）は日本植物特集号となっているので，紹介しておきたい．本誌には毎号興味深い記事が登載されており，日本植物に関連する記事も多い．この第33巻3号では「まえがき」に2016年にKew植物園，2017年に国立科学博物館と東京大学博物館とで開かれる日本植物のボタニカル・アート展に合わせて刊行されたとある．2016年の展覧会の図録は『Flora Japonica 日本植物誌』の書名で既に出版されている．第33巻3号はKew植物園のボタニカル・アーティスト山中麻須美氏が企画・編集したという．本号には11種が載せられており，新種ヒゴコバイモを含む．各種について本誌の主眼である色彩の写生図 (plates 836–847) と図解（線画）があり，その記載・解説と多くに生態写真がつく．写生図・図解は最後のヒゴコバイモ（新種）を除いて日本のボタニカル・アーティストによって描かれている．含まれている種の和名（著者・画家）を挙げると次の通りである．トガサワラ（大橋広好・小西美恵子），オオヤマレンゲ（邑田裕子と邑田　仁・端　眞由美），ヤマトリカブト（門田裕一・斎藤光一），ワサビ（岩科　司・米田　薫），サンショウバラ（大場秀章・芝田美智子），アマミヒイラギモチ（永益英敏・安江尚子），コミネカエデ（Martyn Rix（本誌編集者）・石川美枝子），アカモノ（米倉浩司・佐々木啓子），アマミテンナンショウ（邑田　仁・石川美枝子），キヌガサソウ（田村　実・山中麻須美），ジョウロウホトトギス（池田　博・山中麻須美），*Fritillaria kiusiana* L. Hill ヒゴコバイモ (Laurence Hill (Kew)・L. Hill)．写生図は図鑑の植物図とは異なり，各種の特徴と繊細な美しさが正確によく描かれている．植物の描き方に画家の特徴がでており，楽しく見ることができる．惜しいことに印刷の悪いところがあるのは残念で，オオヤマレンゲでは花弁の色が白いバックでつぶれていて，平面的な感じがする．解説は各種ごとに著者が自由な取り上げ方をしており，それぞれに優れた記載と随筆になっている．

（大橋広好 H. Ohashi）



□大村嘉人：**街なかの地衣類ハンドブック**　110 × 182 cm. 80 pp. 2016. 文一総合出版．￥1,400＋税. ISBN 978-4-8299-8132-0 C0645.

普段，よほど気をつけていないと見逃してしまう，街中の地衣類を紹介している．小さいハンドブックの中に地衣類の多様性，形態，構造，繁殖，呈色反応などと共に生育基物や生育場所，地衣成分の検出法や標本の作り方，地衣類を利用する小動物の話までが盛りだくさん紹介されている．本書では58種の地衣類が種名をたどりやすいように，地衣体や生殖器官の色を黄色系，黄緑色系，緑色系，暗色系，灰緑色系，白色系地衣類の6群に分けて紹介してある．各種の特徴は生態写真や地衣体の拡大写真に種の特徴が概説されている．扱われている種には固着地衣類も多く，実物を見つけ出すことは一般の人たちには難しいと思う．しかし，ルーペで見える地衣類を本書の写真と見比べてみたら，街中に広がる多様な地衣類の世界が見えてくるだろう．この小冊子をポケットに忍ばせて，ルーペ片手に身近な地衣類を探索してみるのも一興である．また，観察会などの副読本と